



幸せを探しているあなたに

なぜイエスだけが私たちに 道になるのか?

釈迦、ソクラテス、孔子、イエス 世の中ではこの四人を地球上の4大聖人だと言います。釈迦は、かつて人生の生老病死と百八煩惱に対する解答を探して大きな悟りを得て、BC 483年に世を離れる前に弟子に残した涅槃経で三不能を告白しました。最初「悪業の報い衆生制度不能」自身の悪業の報いは制度的に解決が不可能で、二つ目「無縁衆生制度不能」縁がない衆生は生かすことができなくて、三つ目に「三世衆生制度不能」すべての衆生界をみな救うことができず、過去と現在、未来を統治するということは不可能だということです。「あなた自身を知りなさい」という言葉で世の中に知られたソクラテスは、幼い時期から幻聴をしばしば聞いて、没我状態を経験した「神懸かりの人」だったと言われています。BC 399年に毒杯を飲んで死ぬ前に、弟子に「クリトン、私はアスクレピオスに鶏一羽を借りたよ。君が忘れないで、この借金を返してくれるか…」と言った遺言は、ギリシャ医術の神であるアスクレピオスにソクラテス自身の苦しい人生を癒してくれるように頼んだことだと言われています。

「朝に道を聞けば、夕べに死すとも可なり」という座右の銘を持って生きていた孔子は、論語で告白して「獲罪於天、無所禱也」すなわち、空に向かって犯した罪は、どこに向かっても空くことができなく、許されることできないと言いました。ある日、弟子の子路がに訪ねてきて「死後にはどうなりますか」と尋ねたとき、孔子が答えて「人生もまだ知らないのに、どうして死に対して分かるだろうか」と言いました。それなら、十字架で死につつ「完了した」(ヨハネの福音書 19:30)と宣言して、3日後に復活され人間の罪と呪い、運命、サタンをうち砕いて人間の救いを宣言されたイエス・キリストはどんな方なのでしょう。

なぜイエスだけを信じなさいと言うのでしょうか。多くの人々が宗教はみんな同じだと思っています。また、善を行うのが宗教の目的だと話します。ある宗教は、徳を積んで、他の人々を助けてあげれば救われると思っています。しかし、キリスト教は宗教ではなくて、いのちそのものです。宗教は人々が作ったものです。しかし、福音は神様がくださったのです。宗教は人が訪ねて行って努力しなければなりません。福音は神様が自ら私たちに来られたことです。宗教は人の行いが基準ですが、福音は神様の救いが基準になります。救われていない者は、そのたましいはサタンに縛られています。それで、一生、サタンの呪いの中でさまよって、偶像崇拜、法事、お守り、お祓い、いろいろな宗教などを尋ね歩きます。解答があるように見えるのですが、結果はより大きい苦難だけです。結局、神様に会えなければ、現実的にこの世で失敗して、この世を離れたら地獄に行くようになります。このサタンの権威に勝たれた方だけが、人間の救い主になれます。また、必ず人間でなければなりません。しかし、罪があってはなりません。原罪を犯したアダムの子孫ではだめです。罪の代価で罪がないからだが生かされなければなりません。また、神様という証拠で復活しなければなりません。これらすべての条件を満足させる人が、世の中にただ1人だけ来られたのですが、その方が、イエス・キリストです。救いとは、あなたをすべての罪の問題から解放させることです。第一に神様との約束を破って離れた永遠に呪われる罪である原罪、第二に原罪の結果で来た「とが」である自分が犯す罪、偶像崇拜の結果で子孫に災いを及ぼす先祖の罪です。そして、サタンの権威とその運命から抜け出すのが救いです。サタンは今でも生きています。しかし、救われた者を決して打ち倒すことはできません。イエスの御名で祈れば、サタンは縛られます。また、来世にあなたは天国の御座に座るようになります。天国だけでなく、現実の中でも救いの証拠がずっと来るようになるのです。

根本を変える 神様の働き

根本を変えなければならない理由 最近、中高生のあきれられる卒業式の現場のニュースで世の中が騒いでいます。ある中学校では、学生たちが卒業式を終えた女子学生の制服を破ってはがして、YouTubeでは、卒業式後、女子高生が下着だけで海水に飛び込みました。女子中学生の裸の暴行動画がウェブポータルサイトに出されたかと思えば、数十人の卒業生が全国各地で服を脱いで疾走したり、団体で女子学生の服を完全に脱がせてしごきをする写真を撮って、インターネットに流したりもします。むしろ、加害学生は「卒業すれば、当然、殴られ殴るので、これは学校の伝統」と堂々と話しています。どのようにすれば、教育現場を生かせるのでしょうか。見ることもできなくて、聞くことができなくて、話すこともできなかった子どものヘレン・ケラーを、アン・サリバンは、20世紀最大の奇跡の主人公として育てました。ヘレンは「私が三日間、目が見えるならば(Three days to see)」という文でこのように告白しました。「はじめの日、私は親切と謙そんと友情で私の人生を価値あるようにしてくださったサリバン先生を訪ねて行って、今まで指先だけで知っていた彼女の顔を何時間もぼんやりながめながら、その姿を私の心の中に深く大事に保管しておきます。(中略)家に帰って、私をその三日間だけでも見ることができるようにして下さった神様に感謝の祈りをささげます」

神様の働きで人生と現場の根本を変えることができます。今から少しずつ聖霊の導きを受ければ、神様の働きが見えるようになります。今から重職者は3つのことを見れば良いのです。第一に、教会に起きる神様の働きを見なければなりません。マルコの屋上の間の教会、アンテオケ教会、テサロニケ教会に起きた答えを味わうべきです。二つ目に、現場の中で神様が備えておかれた黄金漁場を見なければなりません。特別に、学校はこの時代にとっても重要な黄金漁場です。このとき、必ず弟子が出てきて、弟子チームが構成されるようになっていきます。これが、重職者たちが理解しなければならない重職者伝道企画です。そうすれば、必ず三つ目に、伝道専門チームが作られるようになります。それが、ローマ16章の人物で、パウロと一緒にいたチームです。初代教会は、この三つの神様の働きを見ながら、人生の根本を変えて地域を生かす神様の働きで、ローマ福音化を成し遂げるようになったのです。この三つの神様の働きが重職者が味わわなければならない祝福です。

神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決してくださったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どものお五つの確信

- 1 救いの確信**：イエス・キリストを信じて受け入れたあなたは、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15~16、Iヨハネ 5:10~13)
- 2 祈り答えの確信**：神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 導きの確信**：神様は聖霊であなたの中にあられ、あなたのすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26~27、箴言 3:5~6)
- 4 赦しの確信**：あなたのすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さい(1ヨハネ 1:9、ローマ 3:24)
- 5 勝利の確信**：救われたあなたは、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31~37、Iヨハネ 5:4)

神様の子どものお毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにあられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できま

すように。今も私とともにあられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

心を動かす あの日の答え

タシケントに
来ています！

「宣教師さん、今、私はフライトでタシケントに
来ています。今、ロサンゼルスにいらっしゃいますよ
ね。現地のキャビンアテンダントのユミ姉妹がロサ
ンゼルスのフライトに行ったのですが、ずっと気にな
っています。ホテルに行ってみことばを伝えていた
だけですか」2009年2月、ロサンゼルス多民族修
練会を終わった次の日、ロサンゼルスの郊外に位置
する集会場所に移動しようとしていた朝、航空会社
に勤務しているあるキャビンアテンダントの姉妹か
ら電話がありました。それも遠いウズベキスタンから。
「あ、わかりました。行ってみます」返事はこの
ように言いましたが、そのキャビンアテンダントが
宿泊しているホテルはロサンゼルス市内にあり、ス
ケジュール上、もう一度、市内に戻る事はできない
状況でした。

その新しく信じたキャビンアテンダントの姉妹は、
毎回時間が合わせるのが難しく、外国でも可能なら
みことばを聞いてほしいという思いで頼んできた
のでした。現場でいのちを生かすためのみことば運
動を持続させるときには、みことば運動をする時間
と場所を固定することがとても重要です。最初にみ
ことば運動を始める時に、海外の働き都合により
持続できないだろうと思って現場に行くと、持続で
きない門ばかりが開かれました。しかし、私よりハ
ードスケジュールな人に出会ったのですが、それが
航空会社の職員の方々です。みことば運動を始めな
がら、どのような形式であれ、現場の働きを持続す
ることに方向を定めました。私たちは月末になると、
各自のスケジュール帳を開いて次回に会ってみこと
ば運動するスケジュールから決めます。持続にポイ
ントをおくことは、このように特殊な現場では必ず
必要不可欠なことでした。

午前の講義を聞きながら、遠い異国の地に来てい
ても現場が必要としているという知らせを聞くよう
になった事を心の中で感謝しつつ、どうすればユミ
姉妹の所に行けるかと考えました。午前の講義が終
わりかけた時、講師の牧師先生が重要な約束があっ
て午後の講義ができないため、全体の講義を早く終

えると言われました。不思議な神様の働きに驚きま
した。

残りは車の手配だけ答えられれば良いのに。この
ような事情がある長老に話したところ、遠い道のり
なのにもかかわらず、すぐに車に乗せてくださいま
した。それで、ユミ姉妹に電話をしました。

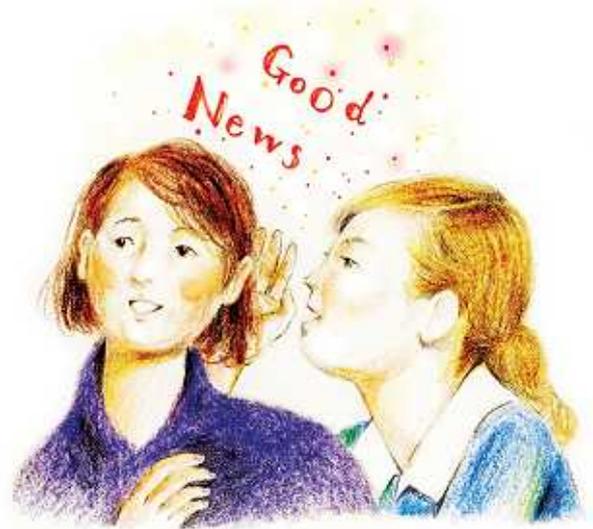
「本当にロサンゼルスにいらっしゃるんですか。お
ひさしぶりです。実は、今、体調がとても悪くて。
昨日からお腹が痛いんですが、原因不明で、二日間、
水だけ飲んで横になっています」それで、神様は遠い
中央アジアにいるキャビンアテンダントの心を動か
されたんだと思いました。キャビンアテンダントは、
つらい業務が多いので、かなり重病でないかぎり
は、他のメンバーに迷惑がかかると思って、自分の体
調について話をしない習慣があります。英語が話せる
働き人をお願いして、国際電話で病状を確認して、
良い薬を手に入れました。気が弱いユミ姉妹は、一
人でホテルで痛いお腹を抱えていたのですが、突然、
私が薬を持って訪ねたので、驚いて涙を流しました。
もちろん、私たちは韓国でしていたみことば運動を
ロサンゼルスでも続ける事ができましたし、特に、
私たちのために天の御使いを送って、死の陰の谷の
ようなところでも、人生で追い詰められた路地のよ
うなところにおいても、ともにいて守ってくださる神
様の愛について分かちあいました。

いのちの福音がもう少し多くの国と民族に伝えら
れることを願いながら祈る、少数の働き人から始ま
った航空現場の伝道運動。今は、地域教会の強固な
サポートと重職者を通して備えられた場所を土台に
して、全員が一つの心となって航空会社の人々を生
かす伝道チームが構成されました。今日も神様は、
すれ違う少しの時間の中に「ピリボ」と「エチオピア
の宦官」の出会いを、この現場に備えておられるで
しょう。(伝道キャンプ総局、ユン・ギョンア宣教師)

私のたましいは黙って、ただ神を待ち望む。私の救いは神
から来る。神こそ、わが岩。わが救い。わがやぐら。私は
決して、ゆるがされない。(詩篇 62:1-2)

ニュース NEWS 聞きましたか？

イラスト・ユン・スルギ



アメリカと南アメリカの中間に位置するので中南米と呼ばれるハイチの地震の惨状が他人事でなく、はやく詳細に伝えられている。この頃は、インターネットの発達で全世界のニュースが時々刻々に伝えられる。むしろお隣りでどんなことが起きたのかは分からないが、地球の反対側で起きた知らせのほうがさらによく知っている。ニュース(NEWS)は、一般によく知らない新しい知らせを言うのだが、重大な知らせというビッグニュース、驚くべき知らせで現場で送ってきたばかりの生き生きしたニュースであるホットニュース。最も重大な記事でしばしば新聞紙面では、目によくつく一番上の側に出されるトップニュース、インスタントニュースというニュース提供者が本来の情報を自分たちに有利な方向で加工して完成された形態で提供するニュースもある。スポットニュースは、瞬間的なニュースとも言われるが、ラジオやテレビ放送でプログラムの進行をしばらく止めて放映するととても短くて簡単なニュースだ。このように、ニュースは多様な要求を充足させる中で、結局、人間生活で知らなければならぬ常識の最小単位にニュースは席を占めていて、それゆえ、いくら忙しい人でもニュースは必ず見ようとするのだ。

ニュース(NEWS)は北(North)、東(East)、西(West)、南(South)の最初の文字から取った頭文字を使った言葉で、4個の方位から来る知らせとか、そちらへ行く知らせだと言える。私たちは日が昇る方向に従って、東西南北と言うが、単語を作った人々の関心にしがって北東西南(NEWS)と使うのは、文化創出者が味わう特典だと言える。

人々の関心は未来にあるが、真の関心は今日をどのように生きるかに集中していて、その混乱の場を賢く避ける好奇心で、ニュースは世界の人々の焦眉の関心事になっている。

ニュースの属性は時間性によって、新しいことではなければならず、はやく伝えられなければならない。

近い例で、ある町内のスーパーマーケットで牛肉を安く売るといふ情報は、はやく聞いた人にだけニュースであって、遅く聞いた人には一つの話にしかならないことと同じだ。それなら、急いで回る人間の世の中で、真のニュースははたして何なのだろうか。牛肉を安く売る、そちらに走って行って、不意に交通事故にあったら、その人にニュースは価値がないのだ。

人々は生きている間、知りたいニュースを求めますが、真に必要なことは「生かすグッド・ニュース」だ。終末の預言に関心を傾ける多くの話の中でも、事実の可否は、想像の中では整理できるが、現実成就するのは神様のみことば、すなわち、福音(Good News)だけだ。

人生はいくら努力しても限界を抜け出せない。なぜなら、理由を今、直ちに分からなくても、人間が神様を離れたためだ。それなら、神様に会えば良いという知らせがグッド・ニュースだ。さらに、神様に会う道があるということがグッド・ニュースだ。神様に会えば、生年月日による運勢、運命から抜け出すということがグッド・ニュースだ。これ以上、苦しみにあう場になくてもよいという自由が、すなわち福音だ。福音がグッド・ニュースに聞こえるようになる人にだけニュースの真正さが発見できるのだ。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

*相談したい方はこちらまでどうぞ